

## 平成 29 年度 清水海岸侵食対策検討委員会（平成 30 年 2 月 27 日）

### 発言概要

#### ○1. 平成29年 台風21号による被災状況報告

- 2号消波堤周辺は侵食で海底勾配が急になっており、これまでと同じ養浜方法では、養浜材が流出しやすくなると考えられる。
- 消波堤区間は台風21号前後の海浜部の土砂量変化だけをみると侵食と堆積がほぼバランスしているように見えるが、浅い箇所には1～2万m<sup>3</sup>程度しか残っていない。それよりも沖側に堆積した土砂が今後どのように変化するかモニタリングで確認していく必要がある。
- 1号L型突堤（H30.2現在建設中）は横堤が概成しており、今後、2号消波堤周辺の漂砂環境はさらに厳しくなると考えられる。このことを念頭においたモニタリングの実施や、侵食対策を検討・実施していく必要がある。

#### ○2. モニタリング結果報告

- 台風21号の波の周期は16.5秒と長かった。台風21号来襲時の高波浪と、計画外力を比較して、1号L型突堤の安定性を確認しておくことが望ましい。
- 静岡海岸と清水海岸の境界近くの侵食部分は、エラーデータの可能性があるため確認すること。
- 測線No.85の離岸堤開口部の侵食が、今後自然に回復する可能性がある局所的なものなのか確認が必要である。
- 3号ヘッドランドより上手側の海中部の堆積箇所は、安倍川からの土砂が到達して堆積してきている可能性が考えられる。
- 1号L型突堤の横堤は概成しており、現時点でこれまでよりも砂が流れ難くなっていると考えられる。来年度、台風21号と同様な台風が来た場合には、下手側の被害は今年の台風21号のときよりも酷くなる可能性があると考えられる。
- 1号L型突堤の下手側は砂浜が取られてしまう可能性が高いのではないかと。
- 1号L型突堤を建設して完成ではなく、養浜とセットで対応していくことが必要である。
- 今後の対応方針について、「対策を検討」「対応が必要」といったあいまいな表現では住民は安心できないため、「いつまでに」「何を」実施するのかについてできるだけ具体的に示して欲しい。予算の都合でできること、できないことはあると思うが、それも含めてどこが最優先になるのかを示すことが必要と考える。

- 海岸での現象が難しいのは分かるが、「川からの土砂が減ったから侵食した」とか「○年後に土砂が到達してくる予定」など、できるだけ端的に原因や見込みを示して欲しい。
- 養浜は平成初期から実施しているが、既設L型突堤周辺以外で砂浜がついたところはほとんどないのではないかと。養浜をしても台風がくるとなくなってしまふ。養浜は効果がないのではないかと思う。
- 現状で砂浜の回復がなかなか見られないということは指摘のとおりと考えるが、養浜を実施していなければ今よりも酷いことになっていたと考えるべきである。
- これまで実施してきた養浜等の対策により、台風21号来襲時の計画規模に近い高波浪が来襲しても大きな被害がでなかったということの評価すべきであり、住民、市民にもしっかり伝えていく必要がある。

### ○3. 平成 29 年度の事業実施状況と平成 30 年度の事業予定

- 住民に説明できるような具体的な対策案を示して欲しい。
- 三保松原は景観に配慮する必要があることは理解できるが、それ以外の箇所は強固な堤防を作って背後地を護るほうがよいのではないかと。

### ○4. サンドリサイクル養浜材の採取方法の検討

- 平成30年度の採取箇所は北側に移動させているが、これは採取できる箇所がどんどん北側に移動し、持続可能（サステイナブル）なサンドリサイクルができないことを示しているとも取れる。

### ○5. フォローアップ会議の報告

- 1号L型突堤は、既設消波堤より堆砂効果を期待できることと、低天端になることから、現在より景観向上に繋がる可能性は高い。ただし、突堤部と横堤部が一体化した構造になっていないため、先端側の堆砂能力が既設L型突堤より落ちるため、突堤陸側南から見た場合に、堆砂層によって横堤が見えなくなる可能性は低いことに注意すべきである。

### ○その他

- 住民と行政で、海岸の現状、事業の効果等の認識共有が十分できていないと感じる。認識共有を図るための機会を設けるべきではないか。
- 地元住民を対象としてアンケート調査等を実施し、どのような質問・疑問を住民が持っているかを把握した上で、それに対して回答することで情報・認識を共有するという方法も考えられる。
- 海岸防護のあり方のひとつとして、セットバックについても考えてはどうか。

以上